

奥多摩 石尾根から長沢背稜

【山域】奥多摩 長沢背稜

【日程】2015年10月24日（土）～26日（月）

【メンバー】CL 橋本丈夫、SL 辻本喜代志

【行程】

10/24：奥多摩駅(345m)8:40－三つ木戸山(1177m)－六つ石山 11:50－城山(1523m)－鷹巣避難小屋(1570m) 15:20（テント泊）

10/25：鷹巣避難小屋 6:40－七つ石山 1753m－奥多摩小屋－雲取山(2017m)9:10－雲取山荘(1831m)－芋木ノドッケ(1946m)11:20－長沢山－水松山(アララギ)－滝谷の峰－西谷山－西谷避難小屋(小屋泊) 14:50

10/26：西谷避難小屋 6:10－一杯水避難小屋 8:30－日原バス停 10:50

今回の山行の主目的は、軽量化と衰える体力の確認である。衰える体力をカバーして安全に山行を楽しむには軽量化しかない。ウルトラハイクなどの資料では個人装備 5kg、炊事+幕営用具 3kg に水、食料を加えて総重量 12kg を目標に準備した。軽量化に最も寄与したのはザックである。旧ザック (70L) が 2.5kg に対して新しいザックは 0.96kg と 1.5kg の軽量化ができた。食糧はドライフーズ、着替えなしでほぼ達成できた。

山行報告

10/24：朝 5:09 稲毛発の各停で新宿へ、ホリデー快速で奥多摩駅に 8:21 に到着した。最近の登山ブームで、出発するときはほぼ満席だが、ケーブルカーのある御岳駅でドッと下りた。

快晴の奥多摩駅前には、ハイカーでごった返している。臨時バスも増発されているようだ。我々は奥多摩駅がスタートで、1.5L の水を詰めザックを担ぐ。駅からすぐに登りが始まり、約 1 時間の舗装道路歩き。奥多摩の溪谷は深く、斜面の傾斜が強い。よくこんな所に人が住んでいるものと感心する。

石尾根登山口の立て看板からいよいよ山道で、尾根筋に沿った登山道は、明瞭で難しい所はない。尾根筋には防火帯があり、木漏れ日の長い登りの連続。風もなく日差しも強く、登山初日はつらい。相棒は半袖シャツ 1 枚で登って行く。六つ石山から鷹巣山までの西側のトラバース道はほぼ水平道で、疲れた足の二人には、極楽への道の様であった。七つ石小屋のテントサイトまで行きたかったが、相棒が昨夜の酒と睡眠不足で、鷹巣避難小屋で一日を終える。避難小屋にはすでに数人いたので、防火帯の草地にテントを張る。水場の湧き水は少ないが、



紅葉と落葉の石尾根を歩く



鷹巣小屋の防火帯で一杯

ステンレスの容器と柄杓があり、水を採るのに助かる。テント場にはテーブルもあるので、楽しい一杯と夕飯を取ることができた。

10/25：夜、雨が降ったあと、天気予報どおり寒気が降りて来て強い寒風である。4時半に起床し朝食を済まし、体調を整え6時20分、鷹巣幕営地を出発した。幸いテントは強風のため、濡れも少なかった。ここから雲取まで防火帯のある尾根筋歩き。昨日に続き七つ石までトラバース道に行くが、谷筋の紅葉は素晴らしく、遠くに富士も見える。昨日はPM2.5で霞んでいたが、今日は強風ですっきりとした富士だ。トラバース道から七つ石山頂に登り、ここで記念の写真を撮る。

雲取の山頂まで2時間半の行程であった。山頂からは丹沢、南ア、八が岳、相模湾、伊豆半島の山などが良く見えた。市街地も見えるので、水を持ち上げて避難小屋で泊まれば、きれいな夜景を満喫できそうである。いつも山頂で山の鳥瞰を簡単に確認できるといいなあと思う。

いよいよ、長沢背稜に入る。長沢背稜に入るとこれまでの植生とは異なり、奥秩父の苔や栂になる。雲取の南面と北面で、何がそのようにさせるのか知りたいものだ。しばらく下ると雲取山荘に到着する。休憩しようとするヘリによる荷物の搬送中で、邪魔になるので先に行かされる。冬支度なのでであろう何度もヘリが行き来していた。

長沢背稜は枯れた倒木が沢山ある。温暖化、排気ガス、自然の流れ、何の影響かな？周囲の変化をみながら、仙塩尾根でのヒヤリハットを二人で話しながら、長い稜線歩きを過ごした。雲取山から西谷小屋まで、山荘以外では人に会わない静かな約6時間の長い道であった。芋の木ドッケ以外、ほとんどが稜線伝いなので、大きなアップダウンもないルートである。歩くのも嫌になったころ、西谷小屋14:50に到着した。傍の湧き水も出ていてホットした。誰もいないと思っていたら、一人の男性先客がいた。お互い誰も来ないだろうと、笑いながら挨拶を交わした。すぐに夕飯の支度をして、ビールを湧き水で冷やして乾杯する、この一杯のために山行しているようなものだ。



西谷避難小屋

10/26：今日も快晴。風も止み気持ちの良い尾根歩きで、一杯水小屋まで楽しんだ。一杯水小屋は綺麗に整理されており、ここに泊まる（水場は未確認）のもよさそうだ。小屋の中に東日原からのバスの時刻表があったので、余裕を持って下山できる。一杯水小屋で石尾根～長沢背稜と長い尾根歩きを終え、いよいよヨコスズ尾根の下りである。日原まで約800mの下りだ。その先は温泉とそば屋が待っている。

尾根の途中に奥多摩を一望できる場所があり、石尾根から長沢背稜とぐるっと見渡すことができた。快晴の空の下、晩秋の奥多摩は植林が多いのか、紅葉の色が足りないと思いながら眺望を満喫する。1200mから下は植林帯で景観もなくなただ下るだけ。足を余らすようにバス停に到着する。



ヨコスズ尾根から雲取山を望む

奥多摩駅近くの目指す蕎麦屋

は、月曜が定休日だった。ルートの確認も大切であるが、下山のバスの時刻、風呂や食事店の状況も、事前に調べておけばよかったと思いながら、玉翠荘で入浴し手短に乾杯と食事を済ませ、奥多摩をあとにした。

【橋本記】

【橋本の感想】

体力の衰えはある。でも軽量化で山行は楽になることは確認できたので、もっとトレーニングをして、長い縦走に挑戦してみたいと思う。石尾根～長沢背稜は高齢者でも楽しめるルートであった。

【辻本の感想】

山行前夜、仕事上の付き合いで遅くまで酒を飲んだ。帰宅したのが午前1時半。5時過ぎの電車に乗るため慌てて布団に潜り込んだ。電車の中では残り酒と睡眠不足で、きっとバテてしまい相棒に迷惑をかけるのではと心配していた。

石尾根は鷹巣山から下ったことがあるが、登るのは始めて。いつか登らなければとは思ってはいたが、3日分の食糧を背負って登るとは考えもしなかった。やはり自分のせいで七つ石小屋まで届かなかった。おかげで2日目が長かったが、どうやら陽が陰る前には西谷小屋に着くことができた。

それにしても長沢背稜の長いこと。静かな山行は味わえるが、そこを曲がれば小屋だろうと期待しても裏切られるばかり。いい加減に飽きる。やはり一杯水から川苔山くらいが飽きないかも知れない。